

[016]言語文化叢書 : 国際化時代の大学英語教育 :
現状の足梯と新たな可能性 : 表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4771877>

出版情報 : 言語文化叢書. 16, 2005-03-18. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

目 次

序 文.....	(井上奈良彦) i
目 次.....	iii
第1部 大学英語教育プログラム分析.....	(津田晶子) 1
第1章 日本の大学英語教育を巡る社会事情.....	3
1.1 英語のグローバル化と多様化.....	3
1.2 アジアの英語教育事情.....	4
1.3 中国・韓国・日本の大学英語教育事情の比較.....	5
1.4 文部科学省の英語教育政策.....	9
1.5 まとめ.....	14
第2章 九州大学とその学生の特徴.....	15
2.1 九州大学の歴史的、地理的背景.....	15
2.2 九州大学の特徴.....	16
2.3 九州大学の学生の英語のレベル.....	19
2.4 まとめ.....	23
第3章 全学教育の必修科目「言語文化科目 I」としての英語.....	25
3.1 九州大学の全学教育と言語文化科目 Iの位置づけ.....	25
3.2 全学教育内での英語の位置づけ.....	25
3.3 全学教育の一般的目標と言語文化科目 Iの目標.....	27
3.4 言語文化科目 Iの英語のクラス編成.....	29
3.5 言語文化科目 I (英語) の授業内容.....	30
3.6 言語文化科目 I (英語) の履修例.....	31
3.7 考察.....	32
3.8 まとめ.....	37
第4章 全学教育言語文化科目 I英語のオンラインシラバス分析.....	38
4.1 シラバスの定義.....	38
4.2 学内でのオンラインシラバスの扱い・シラバス分析の意義.....	38
4.3 分析対象.....	39
4.4 分析上の制約.....	40
4.5 まとめ.....	41
第5章 オンラインシラバス分析結果.....	43
5.1 講師の配置 (日本人・外国人の比率).....	43
5.2 「総合英語演習」「英語特別演習」(EGP)の「指導スキル」分析.....	46
5.3 「総合英語演習」「英語特別演習」(EGP)の「取り扱いテーマ」分析.....	54
5.4 使用教材の分析.....	56
5.5 学生の成績評価.....	62
5.6 講義の工夫.....	67

5.7 まとめ.....	67
第6章 結論：考察・提言.....	69
6.1 考察.....	69
6.2 提言.....	73
おわりに.....	77
参考文献.....	79
付録1 言語文化科目I英語 カリキュラム改定案.....	82
付録2 九州大学教育憲章.....	86
第2部 大学英語教育改革の内情..... (井上奈良彦)	87
Chapter 1. Introduction.....	88
Chapter 2. Structure of Foreign Language Education.....	90
2.1. Kyushu University.....	90
2.2. Foreign Language Program in Kyushu.....	90
Chapter 3. English Language Program.....	92
3.1. Current English Language Program.....	92
3.2. How the Current Program was Introduced.....	93
3.3. Proposed New Curriculum.....	94
3.4. How the New Proposal was Introduced.....	97
Chapter 4. Recent Incidents around the Language Program.....	99
4.1. Survival Game: Outsourcing & Graduate School.....	99
4.2. Choosing a Proficiency Test (TOEIC, TOEFL, ...).....	101
4.3. Engineering Faculty Wants TOEIC.....	104
4.4. NetAcademy out of the Blue.....	105
Chapter 5. Factors Influencing the Teaching of English.....	107
5.1. Pressures to Change.....	107
5.2. Language Faculty Psychology: Historical Residues against Changes.....	107
5.3. Constraints in Designing a Language Program.....	111
Chapter 6. Conclusion.....	114
References.....	115
第3部 異文化間教育としての英語パラメンタリー・ディベート..... (中野美香)	116
第1章 ディベート研究の現状.....	117
第2章 先行研究の概観.....	121
2.1 ディベートの先行研究.....	121
2.2 先行研究の問題点と本研究の位置付け.....	124
2.3 異文化間教育の概念と諸問題.....	125
第3章 パラメンタリー・ディベートの歴史と特徴.....	128
3.1 歴史的背景.....	128
3.2 PDとNDT形式の構造的枠組みの相違点.....	133

第4章 PDアジア大会参加者の意識	141
4.1 研究課題	141
4.2 調査方法	141
第5章 日米の大学ディベート大会参加者の意識	146
5.1 日本の大学生の意識調査の方法	146
5.2 日米のPDおよびNDT形式参加学生の意識	147
第6章 異文化間教育としてのパラメンタリー・ディベートの意義	155
6.1 方法論の問題点と異文化学習段階	155
6.2 異文化間教育としてのPDの意義	158
第7章 結論	162
参考文献	163
附録1 世界大会のデータ	168
1.1 開催国と優勝者	168
1.2 成績優秀国・地域	169
付録2 PDの形式	170
付録3 世界大会使用論題例	171
付録4 PDのスピーチ例	172
付録5 世界大会規約	176